

きずな

中央市立田富中学校
1学年通信
2022.9.5 No. 9
文責 長谷川洋子

青雲祭の取り組み、始まりました！

先週の火曜日から、青雲祭の取り組みが始まっています。教室からは歌声が聞こえ、グラウンドからは長縄跳びのカウントや足並みそろえてのかけ声が聞こえてきます。『青春ってやっぱり密なので』は、今年甲子園で優勝した仙台育英高校の須江航監督の名言ですが、1年生の様子を見ていても、先週は感染症対策を取りながらかなり濃密な時間を過ごせたのではないかと感じています。1年生、頑張っています！

青雲祭は、文化の部では「学級合唱」「学年合唱」、体育の部では「タイフーン」「足並みそろえて」「長縄跳び」「学級対抗全員リレー」と色別種目「いかだ流し」「お助け綱引き」「代表者リレー」に取り組みます。どれも**みんなで頑張ることが必要**なものばかりです。

取り組みをしていると、壁にぶつかります。つらいとき、苦しいとき、うまくいかないとき、どんな声をかけますか？どんなものでも得意な人、不得意な人がいます。みんなの力を100%引き出すために、どんな声をかけますか？そうやって**困難を乗り越えるたびに、クラスが一步ずつ成長していくのだと思います。**

そして、一生懸命やった人だけが感じることのできる感動を、ぜひ、1学年みんなに味わってほしいと思っています。

「言葉のチカラ」

「言葉の持つ力」を、医療の現場で実践した人物がいます。脳神経外科を専門とする、日本大学医学部教授の林成之氏です。その林氏が、日本大学医学部板橋病院で救命救急センターを立ち上げた時、医師・看護師・検査技師・事務担当などのすべてのスタッフに、「3つの課題」を出しました。

それは、「**否定的な言葉を、一切使わないこと**」「**明るく前向きでいること**」「**チームの仲間の悪口を言ったり、意地悪をしないこと**」です。

林氏は自身の著書で『『疲れた』『もうこれ以上できない』『無理だ』などという『否定的な言葉』は、自分が言っても、他の人が言うのを聞いても、脳に悪い影響しか与えない。『否定的な言葉』に脳が反応して、目の前にやるべきことがあっても脳がマイナスのレッテルをはってしまう』と書いています。

彼は、救命救急のスタッフ一人一人に、どんなに切迫した状況でも「今、何をすべきか」を口に出して言わせたそうです。また、「絶対に助けるのだ」という強い思いを持ち、そのために「今、具体的に何をすべきか」を考えさせ、「難しい」と言う暇があったら、その理由を一つ一つ解きほぐして「解決策を探す」ということを実践させま

した。

その結果、林氏が在職中、瞳孔が開いた状態で運ばれてきた患者の内、約4割という非常に高い確率で社会復帰が可能になったというのです。

「**プラスの言葉**」は「**考え方**」をプラスに変え、「**行動**」をプラスに変え、そして「**結果**」をプラスに変えていきます。

参考 マイベストプロ「生きた言葉」講師 長野淳子さん



【保護者のみなさまへ】

- ・来週の**13日(火)** **14日(水)** がいよいよ青雲祭の本番となります。この2日間はお**弁当**になります。よろしくお願いいたします。
- ・保護者のみなさまの**参観希望票**は、9月7日(水)までとなっています。参観の有無にかかわらず、提出をお願いします。